

生徒たちの学びの成果がまった
ノート(京田辺市立中央図書館)



シュタイナー教育の理解へ

京田辺の学校

生徒のノート120点 中央図書館に展示

ドイツで生まれたシュタイナー教育を行っている京田辺市興戸のNPO法人「京田辺シュタイナー学校」が3日、生徒たちの学びの成果を紹介する「エポックノート展」を同市田辺の市立中央図書館で始めた。

同校は2001年に開校し、小学～高校生にあたる1～12年生約

270人が学んでいる。教科書を使わずに授業を進め、生徒たちが学びを通じて感じたことをノートに書き込んでいる。取り組みを地域に知ってもらおうと毎年開催している。学年ごとのノート計120点が並んでいる。

低学年では物語などの内容を生き生きと描いていた。12年生ノ

トは源氏物語を自分で現代語訳したものや、カンボジアの地雷問題のレポートなどがあった。同校教員の安藤しおりさんは「子どもた

ちが学んだときに感じた熱がこもっているノートを見てもらえれば」と話している。8日まで。無料。

(江藤均)